

平成29年度 第27回 加古川市中学生海外派遣団 報告書



公益財団法人 加古川市国際交流協会

Kakogawa International Association

目次

ごあいさつ

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 樽本 庄一 ————— 1

中学生海外派遣

オークランド市の紹介 ————— 2

団員プロフィール ————— 3

派遣団日程表 ————— 4

事前研修・結団式 ————— 5

10日間の記録 ————— 6

帰国報告会・事後研修 ————— 15

団員レポート ————— 16

思い出のページ ————— 38

これからの活躍を期待して

近年、グローバル化やIT化に伴い、急速に世界が身近なものとなっています。加古川市においても、2,500人の外国人が生活されており、地域社会で様々な国籍の方と接する機会が増えてきました。

一方で在住外国人の中には、言葉や文化、生活習慣の違いから、日本での生活に困惑し、助けを必要とされている方も増加しています。

このような状況において、在住外国人の方に手を差し伸べるなど、市民レベルでの草の根的な国際交流の必要性がますます高まっています。

当協会では、「地域に根ざした国際交流」を推進するため、外国人からの相談に対応するとともに、外国人に対する日本語講座や、英会話をはじめとした語学講座など様々な事業を実施しています。

また、次代を担う若者を姉妹都市に派遣し、そこでの交流を通じて外国人への理解を深めて国際的視野を持ち、国際親善に貢献できる行動力のある国際人を育成することを目的として、中学生海外派遣事業及び青年海外派遣事業等を行っています。

中学生海外派遣事業は、27回目となる今回もニュージーランド・オークランド市に10名の中学生を派遣し、友好親善を深めてまいりました。今回の派遣により、派遣生が国際理解を深め、草の根的な国際交流の中心的役割を担う人材になっていくことを確信しています。

結びになりますが、この中学生海外派遣にあたってご理解、ご協力を賜りました保護者の皆さまをはじめ、関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年12月

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 樽 本 庄 一

オークランド市の紹介

オークランド市は北島の北部に位置し、一大ビジネス地区を有するニュージーランド最大の都市です。民族はマオリ族をはじめ多岐にわたり、多様性に富んだ文化が育まれています。マヌカウ湾とワイテマタ湾の間に位置するオークランド市では、点在する島々、海岸、森林保護地など自然が豊かに息づいており、誰もが気軽にレジャーを楽しむことのできる環境が整っています。また、気候は穏やかで、生活の質、水準ともに世界最高レベルを誇っています。

加古川市は、1992年にワイタケレ市と姉妹都市提携しました。その後、ワイタケレ市は2010年にオークランド市をはじめとする周辺の市町と合併し、現在のオークランド市となりました。これにより、加古川市とワイタケレ市の姉妹都市交流は、オークランド市との交流に引き継がれることとなりました。

オークランド市と加古川市 ～交流のあゆみ～

1991年（平成3年）	8月	第1回加古川市中学生海外派遣団がワイタケレ市を訪問
1992年（平成4年）	3月27日	財団法人加古川市国際交流協会（現・公益財団法人）設立
	5月	第1回ワイタケレ市学生海外派遣団が加古川市を訪問
	5月4日	加古川市・ワイタケレ市の姉妹都市提携に調印
1996年（平成8年）	6月	姉妹都市提携5周年記念として、ワイタケレ市からトーテムポールの寄贈を受ける
1998年（平成10年）	2月	ワイタケレ市に日本庭園を寄贈
2000年（平成12年）	6月	ワイタケレ市親善訪問団が市制50周年記念式典出席のため加古川市を訪問
	6月11日	加古川市国際交流センター開館
2001年（平成13年）	8月	ワイタケレ市に救急車を寄贈
2009年（平成21年）	11月	ワイタケレ市制20周年記念として、ワイタケレ市に「平和の鐘」を寄贈
2010年（平成22年）	6月	加古川市制60周年記念式典出席のためワイタケレ市訪問団が加古川市を訪問
	11月1日	ワイタケレ市が近隣市町と合併し、オークランド市となる
2012年（平成24年）	5月14日	加古川市・オークランド市の姉妹都市提携に調印
2017年（平成29年）	8月	第27回加古川市中学生海外派遣団一行12名がオークランド市を訪問



加古川市が寄贈した「平和の鐘」



オークランド市との姉妹都市提携の調印式

団員プロフィール（50音順）



青木 希華
別府中学校3年
NONOKA AOKI



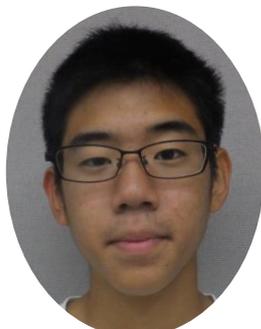
足立 葵
永丘中学校2年
AOI ADACHI



梅高 未侑
中部中学校3年
MIYU UMETAKA



大鶴 優菜
中部中学校2年
YUNA OTSURU



奥野 匠
加古川中学校3年
SHO OKUNO



佐藤 大斗
甲陽学院中学校2年
TAITO SATO



埜本 茜音
平岡中学校3年
AKANE TAOMOTO



中畑 壮之介
両荘中学校2年
SONOSUKE NAKAHATA



長谷川 蛍乃夏
神吉中学校3年
HONOKA HASEGAWA



藤井 陸人
平岡中学校3年
RIKUTO FUJII

引率

稲岡 修一
両荘中学校教諭
SHUICHI INAOKA

梅谷 真紀
加古川市国際交流協会
MAKI UMETANI

加古川市中学生海外派遣団日程表

月日	場所	交通機関	行 程	宿泊先
8月8日 (火)	加古川発 伊丹空港 成田空港	市バス NH26 NZ090	加古川市国際交流センター出発 羽田空港へ向け出発→成田空港 オークランド国際空港へ向け出発	機中泊
8月9日 (水)	オークランド	専用車	オークランド国際空港到着 オークランド市内見学 オークランド博物館見学 ホストファミリーと対面、ホームステイ先へ	ホームステイ
8月10日 (木)	オークランド		スカイタワー見学 オークランドタウンホール訪問 ワイタケレ日本庭園訪問	ホームステイ
8月11日 (金)	オークランド		ラザフォード・カレッジ訪問 授業体験	ホームステイ
8月12日 (土)	オークランド		ホストデー 終日ホストファミリーと行動	ホームステイ
8月13日 (日)	オークランド		ホストデー 終日ホストファミリーと行動	ホームステイ
8月14日 (月)	オークランド		オークランド市内見学 オークランド動物園見学	ホームステイ
8月15日 (火)	オークランド ロトルア		アグロドームにて羊の毛刈りショー テプイヤ見学	ホテル
8月16日 (水)	ロトルア オークランド	▼	オークランドへ向け出発 ハミルトンガーデン見学	ホテル
8月17日 (木)	オークランド 成田空港 伊丹空港 加古川着	NZ099 NH2179 市バス	成田国際空港へ向け出発 伊丹空港へ向け出発 伊丹空港到着 加古川市国際交流センター到着	

事前研修

選考会で選ばれた10名の派遣生は、加古川市の代表としてオークランド市を訪問することの認識を深めるために5回の事前研修に臨みました。事前研修では、まず加古川市における国際交流の現状や当協会が実施している事業について学びました。

続いて、ニュージーランドの歴史や文化、自然など基礎的な知識を学びました。

また、派遣生はポスターブック（オリジナルの自己紹介冊子）を作成し、ホームステイ先で自分や家族、日本や加古川市のことを英語で紹介する準備をしました。

英語研修では、当協会でご活躍されているルーカス・ユレン先生による、実践的な英会話を学びました。さらに、昨年度の派遣生を招いての座談会では、ホームステイや学校訪問など実際の体験談やアドバイスを聞くことができ、より一層海外派遣への期待が高まりました。

また、訪問先の学校で披露する歌の練習やプレゼント作りを派遣生が協力して行うことで、派遣生同士の仲は深まり、派遣団の絆（結束）はゆるぎないものとなりました。

事前研修日程



ルーカス・ユレン先生による英語研修♪

第1回	7月2日	オリエンテーション、自己紹介
第2回	7月8日	加古川市国際交流協会についての理解
第3回	7月22日	英語研修、ニュージーランドについて
第4回	7月28日	昨年度派遣生との座談会、歌の練習
第5回	8月2日	歌の練習、滞在上の注意、決意表明

結団式

8月5日（土）に国際交流センターにて、結団式を実施しました。加古川市長や加古川市議会議長から激励のお言葉をいただき、加古川市を代表して派遣されることへの責任を改めて感じました。また、国際ソロプチミスト加古川から現地で使用するリュックをいただきました。そしてリーダーの藤井さんが派遣にかかる意気込みを力強く宣誓しました。



リーダーの藤井さんによる宣誓



結団式後に記念撮影

10日間の記録

8月8日(火)・9日(水)

藤井 陸人

いよいよ、市の代表という大きく、重いプレッシャーや看板を背負いながら10人の中学生たちが加古川市国際交流センターに集合しました。あの日の集合はみんな他の研修より早かった気がします。まずは、出発式を行いました。

オークランド市表敬訪問団や見送りに来て頂いていた親御さん、学校の先生が続々と入ってきたり、来賓の方々が入場される度に、201号室に緊張感が増してきました。

そんな結団式を終え、伊丹空港に向かうバス内では、奥野君が持参した人狼ゲームで盛り上がりました。



いざ、オークランド@成田国際空港

そうこうしているうちに気が付けば、伊丹、羽田、成田そしてオークランドに到着していました。でも、そう感じたのは僕だけだったようで、他の皆は計13時間以上の長旅にとっても疲れをみせていました。同行した市長も同じでした。しかし、これから始まる異国の地での10日間の事業に不安や緊張が隠しきれませんでした。

8月9日(水)

埴本 茜音

この日は機内泊だったので起きると海の上にいました。少しすると、ニュージーランドが見えてきました。「本当にニュージーランドに行くんだ」と実感が湧いてきてとってもワクワクしました。そして、ついに生まれて初めての海外、ニュージーランドに上陸しました。

着くと朝で、空気はひんやりでした。毎日暑い日本とは真逆でした。さっそくバスに乗って

博物館へ向かいました。バスの窓から見えるお店、看板、信号など景色全部が新鮮でした。ここはニュージーランドなんだ！！と改めて実感しました。

博物館では、キーウィの剥製や戦闘機など沢山の展示物があり、ニュージーランドのことをもっと深く知ることができました。その後、スーパーマーケットに行きました。日本よりもとても店内が広く、チョコやクッキーが日本では比喩物にならないくらい大きさや量で売ってあって驚きました。



博物館にて

そして、いよいよホストファミリーとの対面です。私にとって初めてのホームステイで、皆もとても緊張しているのが伝わってきました。そんな中、迎えに来てくれたホストマザー、シスターと対面した時は二人が笑顔で迎えてくれて今までの不安は一気に消えていきました。8月9日は私にとって、きっと他のメンバーにとっても『生まれて初めて』が沢山あった、忘れられない特別な一日だったと思います。

8月9日(水)

長谷川 蛍乃夏

10時間のフライトを終えて飛行機から降りると、いつもはテレビで見ているような光景が広がっていました。空港から出て、すぐにオークランド博物館へと行きました。博物館では、マオリ民族、戦争についてなどをみました。3

階には日本の零式艦上戦闘機（零戦）があり、説明も日本語で書かれていました。

その後、お昼ご飯を食べ、少しショッピングをしてからラザフォートカレッジに行きました。そこではホストファミリーが待っていて、私はとても緊張していました。そして各ホームステイ先に行きました。私のホストファミリーは、ホストマザー、ホストファザー、16歳のホストシスター、18歳のホストブラザーがいました。最初は何も話すことができず、黙って会話を聞いているだけでした。でも、ホストシスターのフィオーナが気を使ってくれて、いろいろな質問をしてくれました。そのおかげで、自分の英語を試すことができました。



ホームステイ先の家から見える景色

8月10日（木）

足立 葵

スカイタワーに行った後、この日は加古川市長訪問団と一緒にタウンホール・日本庭園を見学、平和祈念式典に出席しました。

オークランドのランドマークタワーであるスカイタワーからは、マウントビクトリアやハーバーブリッジなどが見え、市内を一望できる景色はとてもきれいで感動しました。

オークランドの色々なことを決定する場所であるオークランド市議会・タウンホールは、加古川では市役所のような建物です。建物はとてもきれいで、旧会議室では歴史ある古いじゅう

たんも見学させていただきました。



スカイタワーのガラス床

平和祈念式典では、加古川市とワイタケレ市・後のオークランド市との姉妹都市提携25周年を記念した式典がありました。この式典には、オークランド市のたくさんの人が集まっていて緊張しました。

日本庭園では、派遣団員10人で心を合わせて平和の鐘を鳴らしました。これからもオークランド市と加古川市との友好関係が続き、この平和の鐘が良い音で鳴り響くように願いました。

8月10日（木）

中畑 壮之介

この日は、まず初めにオークランド市内にあるスカイタワーへ行きました。



スカイタワーの景色最高！

スカイタワーでは、エレベーターが意外と狭

かったけれど、床がガラスで下が見えておもしろかったです。展望台からの景色は最高で、虹や街並みを見ることができました。スカイタワーを出た後、少し歩いてタウンホールという場所へ行きました。中に入ってみるとすごくキレイで、とても歴史を感じる場所でした。通訳の人が説明してくれたので、しっかり学ぶことができました。

お昼にはフードコートへ行きました。ニュージーランドのフードコートへ行くのは初めてだったのでどんな感じなのか楽しみでした。でも、意外に日本食があったりお箸を出してくれたりしたので驚きました。海老天は、日本でもニュージーランドでも美味しかったです。

日本庭園にも行きました。日本庭園では僕たちを歓迎してくださり、みんなで平和の鐘を鳴らした時は、絆が深まったように感じました。

8月11日（金）

梅高 未侑

この日はラザフォードカレッジに行き、ニュージーランドの学校生活を見ました。

ニュージーランドの学校は、敷地が日本と比べられないくらい広くてラグビーができる大きさのグラウンドがあったり、授業のチャイムは警報みたいな音ですごくびっくりしました。でも一番驚いたのは、授業です。日本とは全く違って、携帯も普通に使っていたり、音楽を聴いたり、お菓子を食べていたりもしました。そして、休み時間の中にスナックタイムがあります。スナックタイムは、日本でも取り入れたらいいのになと思いました。私たちが、訪問した日はたまたま1ドル募金をしたら私服を着て来てもいいという日だったので皆個性的なファッションでした。1ドルが何に使われるのかというとキーウィバードなどの動物を保護するための資金になるそうです。

また、日本人留学生も数人いて、なぜニュージーランドに来たか話を聞くと、人それぞれの

理由があってすごくリアルな話が聞けてよかったです。私も将来留学してみたいなと思ったきっかけになりました。なので、勉強するだけではなくて話せるようになりたいです。



体験した授業の様子

8月11日（金）

大鶴 優菜

この日はラザフォードカレッジで学校訪問をしました。私がこの日一番驚いた事は、日本とは全然違う学校やクラスでの雰囲気です。学校は敷地がとても広くて校舎がたくさんありました。また、校内に大きなラグビーのグラウンドもあり、1人でいたら迷ってしまいそうなほどでした。



バディのエミリーと

クラスでは授業中にもかかわらず携帯をさわっている人、お菓子を食べている人、立ち歩いて友達と話している人などがいて、衝撃を受けましたが、正直この雰囲気がうらやましいとも

思いました。

授業が終わると長い休み時間がありました。バスケットボールで遊んでいたたり、リンゴにかぶりついていたり、休み時間もとても自由で楽しそうだと思います。その後、学校の生徒達がマオリショーを披露してくれました。私たちと同じくらいの年の生徒がひとりひとり息をあわせて、誰一人手を抜くことなく一生懸命、全力でこのショーを披露してくれた姿がとても印象的で私の心に響きました。

8月12日(土)・13日(日)

青木 希華

ホストデー1日目は、派遣生の足立さんとそのホストファミリーと過ごしました。写真を撮るだろうと私たちのために色々な所に連れて行ってくれました。まず、防波堤を歩いたり、ゴルフを体験させてくれて、動画や写真を撮って楽しかったです。そして、ホストマザーおすすめのアイス屋さんに連れて行って貰いました。そしてビーチに行ってピクニックをしました。美味しかったです。最後に、20歳位の青年のサッカーの試合を見に行きました。普段見ることがないので面白かったです。



防波堤で葵と！

2日目は、昼から水族館に連れて行って貰いました。ペンギンを凄く近くで見ることができて感動しました。いろんな魚を見れました。特にタツノオトシゴが可愛かったです。ホストフ

ァザーが説明しながら回ってくれて、色々話せて嬉しかったです。最後にホストファミリーの娘と孫の所へ行きました。私より年下の男の子が3人いてとても可愛かったです。Wiiをして遊びました。この2日間、沢山の自然に触れ合えてとても楽しかったです。

8月12日(土)・13日(日)

足立 葵

滞在4日目は、派遣団員の希華が来て、ホストファミリーと一緒に過ごしました。英語がとても上手な希華とホストファミリーの会話がはずんでいるのを見て「もっと、会話ができるように頑張ろう」という気持ちになりました。

ホストファミリーは、私たちをビーチ・アイスクリーム屋・市場に連れて行ってくれ、ニュージーランドのことを色々教えてくれました。



希華とビーチにて

スーパーでは、子供がフルーツを試食できる場所があり、バナナの皮をむいて食べさせてくれたので驚きました。

ホストファミリーと一緒に試合の応援に行ったホストマザーとブラザーは、共にサッカーで有名な選手で教室も開催していて、私も教えてもらいました。

夕食には、日本から準備した“いなり寿司”“にゅうめん”“抹茶プリン”を作りました。電子辞書を片手に日本料理の説明をしました。「おいしい！」と残さず食べてくれたのがとて

もうれしかったです。ホストファミリーとの距離を縮めることのできたとても楽しい時間でした。

8月12日(土)・13日(日)

梅高 未侑

12日、13日はホストファミリーと過ごす日で、行く前からずっと楽しみにしていました。なので、どこに連れて行ってくれるのかなと思っていたら12日は自然に触れました。家から見えていた小さめの山に行きました。オークランドの自然を一望できてすごく美しかったです。山を散策した後は、海に行きました。ライオンロックという、寝ているライオンに見える岩がある海でした。冬だったのですごく寒かったのですがホストシスターは、無邪気に遊んでいました。



私がつくったいなり寿司とうどん

13日は、都会のオークランドに電車で行きました。着いてから、まずハーバーブリッジという橋を見てすごくオシャレなバーみたいところで、チップスと魅力的なジュースを注文しました。とてもおいしかったです。そして、クイーンストリートという大通りを散歩しました。途中ショッピングしながらバス乗り場まで歩いてバスに乗って帰りました。

そして、この日の晩ごはんが初めてのラム肉でした。食べられるかなと不安に思っていたの

が嘘みたいにとたくさん食べました。すごく美味しく、私の口に合いました。また食べたいです。たくさんコミュニケーションがとれた2日間でした。

8月12日(土)・13日(日)

大鶴 優菜

12日からの2日間は楽しみにしていたホストデー。不安の気持ちもありつつホストファミリーとの時間を過ごしました。

ホストデー1日目。ホストマザーとショッピングへ行きました。ショッピングモールにはとても大きな本屋やフードコート、お土産屋などがありました。本屋で英語の雑誌を買って、フードコートでアイスを買ってもらって、有意義な1日でした。

ホストデー2日目。ホストファザーとビーチへ行きました。ビーチからはオークランドの街並みや大量のボートなどを見ました。帰る途中に大きな公園もあったのでそこによってもらって、たくさん写真を撮りました。

私はみんなと会えなくてホストファミリーと英語だけを話し続けた2日間、車での移動中でも、夕食の時間でも自分から積極的に話かけること、自分のやりたいことを言うことができ、ものすごく成長できたと思います。この2日間は私にとって、ホストファミリーとの距離を縮めるとても貴重な2日間だったと思います。



ホストマザーと

8月12日(土)・13日(日)

奥野 匠

今年は去年とは違いホストデーが2日ありました。

1日目は、ホストファミリーのジョサイヤとラペンニョのサッカーの試合を見に行きました。二人ともすごく頑張っていてかっこよかったです。

でも、僕にとって一番最高だったのは2日目でした。この日は朝から教会へ行きました。日本では経験したことが無かったので嬉しかったです。午後からは予定がないと言われたので僕が前から行きたいと思っていた水族館を提案したらホストマザーが連れて行ってくれました！そこでは大好きなペンギンや見たことのないタツノオトシゴなどを見ることができとても満喫することが出来ました。

その後、ホストマザーのおばあちゃんの家に行きました。その家の庭のスケールの大きさに圧倒されました。ご飯を食べたり、集合写真を撮ったりとても楽しい時間を過ごせました。本当に最高の休日を過ごすことが出来て、ファミリーの優しさに改めて感謝しました。



最後に撮った家族との集合写真

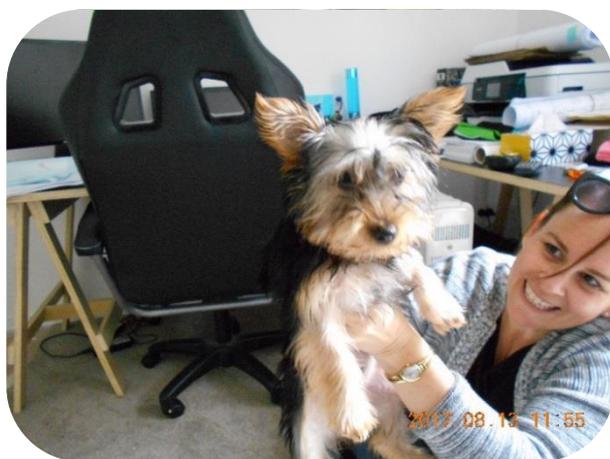
8月12日(土)・13日(日)

佐藤 大斗

この2日間はホストデーでした。8月12日は午前中にホストブラザーのホッケーの試合を

見に行きました。そして、昼食をビーチで食べた後、3人でデボンポートにあるマウント・ヴィクトリアに登りました。そこには第2次世界大戦中に沖合を通る敵の船を攻撃するための砲台がありました。実際は使われなかったそうなのですが、本物の大砲は迫力がありました。

13日には、ホストマザーの弟の家へ行って、ホストブラザーのいとこの誕生日会をしました。その子の家は農家であるらしく、鶏、羊、牛などを飼っていました。日本ではなかなか見ることのできない光景であり、ニュージーランドは自然豊かだと感じました。



ホストファミリーの犬

この2日間で日本には経験できないことをいろいろ体験できたし、いろいろな人とも会うことができてよかったです。また、この2日間はホストファミリーといつも以上に話すことができたので、よかったです。

8月12日(土)・13日(日)

埜本 茜音

いよいよホストデーです。1日目は午前中、掃除をして私は自分の洗濯物を干しました。午後からはショッピングモールへ3か所も連れて行ってもらいました。そこではお土産を沢山買いました。日本のお店もあり日本のものが約5倍の値段で売っていて驚きました。その夜は日本食のいなり寿司を作りました。ホストファミリーは「これなら毎日でも食べられる」と言っ

喜んでくれました。この時、お土産の“のり”や“梅干し”も食べ、のりは好評だったけど梅干しは不評でした。夜はテレビを観て過ごしました。

2日目も午前中はテレビを観て過ごし、午後から海へ連れて行ってもらいました。ビーチは人がいっぱい、半そで半ズボンの人が沢山いました。冬なのに海へ行く人が多いなと感じました。お昼はナイフとフォークで食べるくらい、とても大きなハンバーガーを食べました。

この2日間でホストファミリーと過ごす時間が増え、今まで以上に仲良くなれて距離が近くなったように思えました。とても楽しい2日間でした！！



ビーチにて

8月12日(土)・13日(日)

中畑 壮之介

今日は、ホストファミリーと1日を過ごすホストデーでした。この日は、ホストマザーのジェニファーは別の用事があったので、ホストファザーのピーターとビーチへ行きました。車を降りると、鳥がすぐ近くまで寄ってきたのでびっくりしました。ビーチに行ってみると砂浜にたくさんの貝殻が落ちていたので、記念として持って帰りました。ビーチには冬なのに意外とたくさんの方がきていて、中には海へ入って水遊びをしている子供や犬もいました。ニュージーランドの人達は寒さに慣れていることにとて

も驚きました。

ビーチへ行った後に、魚売り場へ行きました。行く途中にハーバーブリッジを渡り、スカイタワーが見えたりしてとても良い景色でした。魚売り場では、鯛やカニなどおいしそうな食材がたくさん並んでいました。帰りにフィッシュアンドチップスを食べました。何回食べてもやっぱり美味しかったです。ホストデーはのんびりとした、いい2日間でした。



ホストファザーと一緒にいったビーチ

8月12日(土)・13日(日)

長谷川 蛍乃夏

ホストデーは、いろいろなところに連れて行ってもらいました。ホストブラザーのサッカーの試合や、オークランドの自然、ビーチにも連れて行ってくれました。



黒い砂浜のビーチ

でも1番楽しかったのが、私がホストファミ

リーに作ったお昼ご飯の時でした。いなりずしをホストマザーと、ホストシスターで作りました。ご飯は電子レンジでできるレトルトご飯を持って行って、見せるととても不思議そうにしていました。そのあと油揚げにご飯を詰めていると、「グッドアイデア」と笑いながら言っていたので楽しく作ることができました。

食べる時にはお箸を出してくれたので、私は食べやすかったです。でも、ホストファミリーは食べにくそうでした。お箸を使い慣れていなかったの、よくいなりずしを落としていました。食べている時間は、笑いが絶えずとても楽しい時間でした。私にとっては、家族との仲が深まったホストデーでした。

8月12日(土)・13日(日)

藤井 陸人

今日から二日間ホストデイ。でも、僕のホストデイは昨日から始まっていました。というのは、金曜日の晩に家から車で一時間程の別荘へ移動していました。別荘はビーチの目の前で、とても興奮しました。

別荘に向かう途中、僕はホストファミリーが毎月第二金曜日に行なっている、貧しい人々との食事の手伝いをしました。写真の通りテーブルを出してマットを敷いたり、料理の手伝いをしたり、掃除をしたり。とても良い経験になりました。



会場準備中

そして、到着してすぐに、「明日海で泳ぐよ」と言われたので、土曜日の朝、ニュージーランドの人は冬でも泳ぐのかと思いつつ、密かに持参していた泳げる格好をしてリビングに行くと、「どうして泳ごうとしているの?」と言われました。そこで僕はヒアリングミスであることに気付きました。真冬に泳ぐわけがありません。そんな僕をホストファミリーはボートに乗せてくれました。ボートの操縦を終始任されたので、少し緊張しました。

8月14日(月)

青木 希華

ニュージーランドに到着して7日目は、動物園とフードコート、そしてA o t e aギフトショップに行きました。本当は、ショッピングをしてから動物園に行く予定だったけれど、午後から雨がひどくなるかもしれないと、初めに動物園に行きました。自由行動になった瞬間、皆で走ってキーウィを見に行きました。キーウィは一日19時間も寝ているようで、見られるか心配だったけど間近で見られて嬉しかったです。



動物園の顔出しパネルにて

そしてその後、フードコートに行きました。私は、ランチを作って貰っていたのでランチを食べました。時間が余っていたので、女子全員で店に行って皆でお揃いのナイキの水筒を買いました。最後にA o t e aギフトショップに行

きました。何買おう！？と迷っているうちに時間が来てしまって、レジに行くと思ったよりいっぱい買っていて、一番大きな買い物になりました。一日中笑ってばかりで、心の底から楽しんで、とても充実した日になりました。

8月15日(火)

奥野 匠

この日はホストファミリーと別れる日でした。滞在中やさしく接してもらっていたので、寂しくて思わず涙が出てしまいました。最後に全員とハグをしてありがとうと伝えました。

派遣生のみみんなと合流してロトルアという町に行きました。バスの窓からは羊や牛が見えたり、車内では国歌を歌ったりと楽しかったです。ロトルアでは羊の毛刈りショーを見ました。その時牛の乳しぼりをさせてもらいました。たくさん見物人の中から選ばれたので凄く嬉しかったです。子羊もとても可愛かったです。



牛の乳しぼりを体験させてもらった！

その後間欠泉を見に行きました。バスガイドさんから“間欠泉は1日のうちに20回しか出ない”と聞いていたのですが、着いてしばらくして大きな間欠泉を見ることが出来ました！本当にラッキーでした。ホテルでの夕食時にマオリショーを見ました。ラザフォードカレッジのマオリショーとはまた違った迫力がかっこよかったです。そこで女子はポイダンス、男子はハ

カを踊り貴重な体験が出来ました。

8月16日(水)・17日(木)

佐藤 大斗

この日は、研修の最終日であり、早朝にホテルを出て、空港へと向かいました。空港で出国手続きなどをした後は、搭乗時間までお土産を買いました。いろいろな思い出があるニュージーランドを離れるのは、とてもつらく寂しい気持ちになりました。

成田空港に到着して、飛行機から降りた瞬間、ニュージーランドとは違い、ものすごい暑さが襲ってきて、ついに日本に帰ってきたのだという実感が湧いてきました。国際交流センターには、予定より少し遅れて午後10時ごろに着きました。夜遅くであるにもかかわらず、大勢の人達が迎えてくれて、とてもうれしかったです。

今回、この10人の仲間と一緒に行けたからこそ、10日間を楽しく、そして元気に過ごすことができたのだと思います。ニュージーランドでの貴重な体験は忘れません。そして最後に、この派遣事業に携わってくれたすべての人に感謝したいです。ありがとうございました。



帰りの飛行機で

帰国報告会

8月22日（火）加古川市役所で岡田市長と大西教育指導部長への帰国報告会を行いました。派遣生は、現地で経験したことや学んだこと、これから取り組んでいきたいことなどをそれぞれの言葉で報告しました。

「ニュージーランドの人は自分の民族を大切にしているのがすごいと思った」「日本の伝統をもっと知ってほしいと思った」と日本では体験できない貴重な経験を語る生徒や、「チャレンジしないと得るものもないとわかった」「本気で取り組むことの大切さを知った」と物事に取り組む姿勢への変化を述べる生徒もたくさんいました。堂々と報告する派遣生の姿からは、今回の派遣で大きく成長した様子が感じ取られました。



市長のあいさつ



バンバンテレビの取材



最後に記念写真

事後研修

9月9日（土）国際交流センターにて事後研修を実施しました。

研修では、報告書の作成や現地で撮影した写真の交換、学校訪問で訪れたラザフォード・カレッジへのお礼の色紙作りをしました。また、派遣生から本事業への意見として、「普通の旅行では味わえない経験をすることができた」「チャレンジすることは失敗するかもしれないけれど、絶対に得るものがあるということを学んだ」「ニュージーランドに新しい友達ができた」などの声が聞かれました。

団員レポート

最高の仲間とかけがえのない時間

別府中学校

青木 希華

この海外派遣の合格発表を見て、受かっていると知った時、嬉しすぎて舞い上がっていました。幼い頃から海外で勉強してみたいと思っていたので、一つ夢が叶って言葉では表せないほど嬉しかったのを覚えています。

いよいよ待ちに待った出発の日。11時間ほどのフライトを経てニュージーランドに到着しました。初めて見る海外の風景は、とても綺麗で空気が澄んでいました。「着いたんだ。」と思うとワクワクが止まりませんでした。

私がこの海外派遣に行けて良かったなと思い、心に残っていることが3あります。

1つ目はホームステイです。1人だし、携帯もなくて、頼るのは自分の頭だけだったので、自分の今まで習ってきたことが出せたかなと思います。そして、英語を今まで聞いたことのないようなスピードで話していて、慣れるまでは必死に聞かないと聞き取れませんでした。何か伝えたくてもなんて言ったらいいかわからなくて、あたふた

していました。でもそこで喋ろうとするのをやめてしまったら意味がないと思って、自分の知っている限りの言葉で必死に伝えようとしたら、相手も真剣に聞いてくれて、伝わったので、とても嬉しかったです。ホームステイ最終日には家族のように普通に話せて、相手の言ってることもわかって自分自身の成長も感じられて良かったなと思いました。そして、まだまだ勉強しないといけないなと課題もつけることが出来ました。

2つ目は、学校訪問に言ったときに見たマオリの儀式です。自分と同じくらいの年の人達が歌を歌ってくれているはずなのに、私たちには出せない迫力があって圧倒されました。特に男の人が披露してくれたハカはとてもカッコよくて凄いなと思い、ハカの虜になりました。マオリのダンスの動きには1つ1つ意味があると聞いて、と



仲良しなホストファミリー



学校でのマオリの儀式の後に

ても歴史を受け継いでいることを知りました。

3つ目は、この仲間に出会えたことです。この派遣生と稲岡先生、梅谷さんで行った博物館、スカイタワー、動物園、など、全てが一生の思い出です。博物館では、皆で展示物をみながら色々な話をしました。スカイタワーでは、綺麗な景色と虹を見て皆で興奮しながら写真を撮っていました。動物園では、たくさん笑って、走って、話して、皆の仲がとっても深まったと思います。そして、ハミルトンガーデンでしたゲームは本当に楽しかったです。

この10日間で、笑顔、あいさつ、感謝、そして何事にでも挑戦するということがいかに大切かということがわかりました。笑顔があれば言葉がわからなくても自分が楽しい気持ちだということが伝わるし、あいさつと感謝を伝えることがコミュニケーションをとるうえで最も大事なことだと思ったからです。そして何事にでも挑戦することで自分の

出来ることと出来ないことを知ることが出来て、「自分にもこんなことが出来たんだ」！と思ったときは自信になったし、これ出来ないなと思ったときはここを勉強しよう！と思えました。

このメンバーで、ニュージーランドに行けて本当に10日間毎日が充実していたし、幸せでした。海外に行って勉強したいという思いと挑戦してみようという気持ちがなかったら、この派遣団員や引率してくれた稲岡先生、梅谷さん、ガイドのより子さん、谷口さん、ホストファミリー、そして現地の



最後のお題

人などにも出会えてなかったと思います。

この海外派遣で、ニュージーランドがこんなにも温かくて素敵な国だと知り、日本から離れて初めて日本が大好きだと感じさせられました。新たな出会いも沢山あり、そして何より胸を張って英語が好きだと言えるようになりました。まず、この海外派遣に受かったことに感謝して、こんな素敵な思いと経験をさせてくれた、そしてこの海外派遣に携わってくれたすべての人にありがとうございます。次に海外に行く時にはもっと成長して、ペラペラに話せるようにこれから沢山勉強します。ありがとうございました！



動物園にて

将来の夢につなげて・・・

氷丘中学校

足立 葵

加古川市がオークランド市への海外派遣をおこなっていると知った時からこの海外派遣に応募したいと思っていました。

私の小さいころからの夢はキャビンアテンダントです。『世界各国のお客様にふれあうことができる』そんな職業にあこがれをい দিয়ে英語を勉強し、外国に対する知識を深めたいと思ってきました。家族での海外旅行でなく、ホームステイなど現地の方や同じくらいの年の子とのふれあいや現地の学校への通学など生活に密着した色々な体験をとおして交流ができるのをたのしみにしていました。だから「合格」と聞いたとき、とてもうれしくてたまりませんでしたし、私の夢の第一歩を踏み出すかのように感じました。

一緒に合格した仲間たちも色々な夢と派遣への期待をもっていました。出発までの研修でもすぐに打ち解けて色々な話をする事ができ、毎回熱心にたくさんのことを学びました。

そして8月8日。仲良くなった仲間といざニュージーランドへ・・・

ニュージーランドへ到着すると、日本とは違う冷たい風に不安もありましたが、何よりワクワクする気持ちでいっぱいでした。

オークランド市内・オークランド博物館の見学と時間が経つにつれて、「ここはニュージーランドだ！」という実感がわいてきました。

いよいよホストファミリーとの対面です。緊張していた私にホストファザーのジョージが笑顔で迎えに来てくれました。楽しみだったホストファミリーとの出会いでしたが、英語が速すぎて聞き取れないことが多



ホストファザーと朝市へ



カレッジのバディ達と

く、自分の英語にショックをうけてしまい、その夜、ボウリングに誘われて行きましたが、しっかりとコミュニケーションがとれずに一日が終わってしまいました。だから、次の日に派遣生のみんなと日本語を話せてホッとしました。しかし、この日スカイタワーとタウンホール・日本庭園を見学して、ニュージーランドの文化に触れながら「このままではダメだ。ニュージーランドへ来た意味があるのか？」と思い、ホームステイ先に滞在していた留学生のキムやクリーンとゆっくりと会話をしたり、ホストファミリーにも積極的に話かけたりしました。



動物園にて

語が通じないという悩みはすぐになくなり、とても楽しい時間を過ごすことができたと思います。

私はこの派遣を通して、挑戦するということを学びました。英語がわからなくても努力して話をすれば、ホストファミリーの本当の家族の一員のようになれてとても充実した時間を過ごすことができました。自分に自信をもつことができ、キャビンアテンダントだけでなく、英語や外国に関する他の仕事にも興味がわき、私の夢はさらにひろがっています。

この機会を与えてくださった加古川市・国際交流協会の皆さん・梅谷さん・稲岡先生・ニュージーランドでのガイドさんと九人の仲間、そして両親をはじめ身近な人たちに「ありがとうございました」という感謝の気持ちと「これからもこの経験をいかして色々なことに挑戦し、頑張っていきます」という言葉を伝えたいです。

ホストデーでは、派遣団の希華とホストファミリーで色々なところに行き、おいしいアイスクリームも食べました。朝市にも行きましたが、気軽に私にも朝市の人たちとも話をするホストファザーの優しさに「ずっとここにいたいな」と思いました。ホストファミリー全員が忙しくてなかなか揃うことができなかったのに、最後の日には一緒に過ごして、写真を何枚も撮ってくれました。どの写真もみんな大笑いで撮れていて、帰国してからも何度も見てニュージーランドでの楽しい日々を思い出しています。少しの間だったけど最初の不安や英



ホストファミリー集合

二度と味わえない最高の時間

中部中学校

梅高 未侑

私は、この海外派遣の合格を知った場所が学校だったので先生と興奮していました。昨年も応募し、2回目のチャレンジで後がなかったので嬉しさ倍増でした。私は、あまり不安はなく楽しみの方が大きかったです。行く前に、母と何でもチャレンジをすると約束をしていました。この言葉があったおかげで大きく成長できました。

すごく長いフライトを終え、ニュージーランドに着いたのですがあまり実感がわきませんでした。しかし、町に行くと髪や肌の色が自分と違う人がいたり、英語しか聞こえなかったのがようやく海外にいるんだなと実感しました。

私が、特に心に残っていることが3つあります。

1つ目は、学校です。1番楽しかったのが学校訪問の日でした。ニュージーランドの学

校は、日本と違う部分がたくさんあって学校の校舎が全て2階建てです。そして、教室の数が多かったり、プロのラグビーの試合ができるんじゃないかっていうぐらいグラウンドが広いです。生徒を見てもすごく大人っぽい子が多くて、訪問した学校は私たちと同じぐらいの歳の子が集まっているのに、20代に見える人がほとんどです。

生徒の中には、マオリの子もいてポフィリという歓迎の儀式を行ってくれました。すごく迫力があって自分達の文化を大切にしているのだなと思いました。そして、バ

ディと昼食をとった後、体育の授業に参加させてもらって中畑くんがバスケットボールをしたときに、大活躍をしました。その後、話してもいない子とハイタッチとかをしていて国籍とか英語が話せないとかって関係ないのだなと思いました。



現地の学生と撮りました



一緒にスポーツもしました

2つ目は、ロトルアのアグロドームです。オークランドとは、違って自然がとても豊かな場所です。アグロドームには、たくさんの羊がいます。子羊もいます。そんな子羊にミルクを与えるチャンスがありました。私は、すごくアピールしました。すると、係員さんが指を指してくれてステージに上がって子羊にミルクを与えることができました。私は、この時にチャレンジ精神を持つことが大切だと実感しました。そしてこの体験があつてもよかったなと思います。



アグロドームで子羊にミルクをあげました

3つ目は、ホストファミリーにつくった感謝の日本食です。私は、ホストファミリーと別れる前日の最後の夜ご飯の時にいなり寿司とうどんをつくりました。すごくおいしいと言ってくれました。口だけじゃなくて本当に心からおいしいと言ってくれたので少しでも日本の料理にいい思い出が残せたかなと思います。私は、家では母の家事に感謝していましたがあまり手伝うことはしていませんでした。そのなかで、初めて一人で料理してどれだけ毎日助けられているか分かつ

たので積極的に手伝いたいなと思いました。

私は、この歳でニュージーランドに10日も行けて幸せ者だなと思いました。この10日でたくさんの感動と色々な人への感謝で一杯です。日本とは、全然違う事が身近な生活から感じてたくさん感動しました。6日間お世話になったホストファミリー。リビングで家族と毎日テレビを観ながら話をして家族の一員になれたみたいで嬉しかったです。引率して下さった梅谷さん、稲岡先生には毎日助けられました。今年の派遣団員を選考、裏の見えないところで支えて下さった関係者の皆様。現地でお世話して下さったガイドさん。そして、派遣団員のみんな。割と最初から仲がよかったので、特に心配もせず安心して行くことができましたので感謝しています。この10人で行けて心の底からよかったなと思います。最後に家族。ニュージーランドに行ったことによって親と兄弟のありがたみに、気付きました。この海外派遣に今年行けてよかったです。改めて感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



ニュージーランドで一番の大通り

最高の10日間

中部中学校

大鶴 優菜

私はこの海外派遣でたくさんの貴重な経験をし、“挑戦する心”“感謝の気持ち”がどれほど大切なのかを知ることが出来ました。

不安と期待の入り混じった1日目。たくさんの人に見送られて私たちは国際交流センターを出発しました。

長時間のフライトを終え、ニュージーランドに着きました。そこでは見るもの全てが初めてで「いよいよ始まるんだ。」という実感がわいてきました。

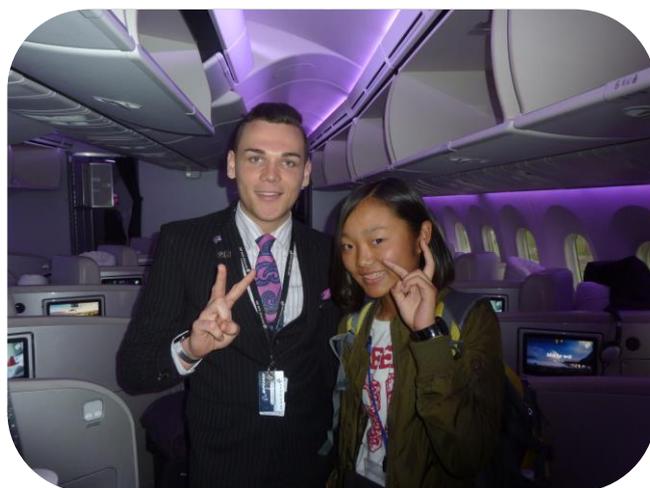
2日目。ホストファミリーと対面の日。ホストファミリーを待っている

時、「車の中で無言の時間が続いたらどうしよう。」とか「自分の言葉が通じなかったらどうしよう。」などずっと不安の気持ちしかなかったのですが、ホストファザーが笑顔で接してくれたおかげでその気持ちがふきとびました。

3日目。スカイタワーに行きました。その展望台からはピンク色の道やカラフルな建物など日本では見ることのできない景色が広がっていました。スカイタワーからの景色を楽しんだ後、タウンホールや日本庭園を訪問しました。日本庭園では平和の鐘をみんなで鳴らしました。今思うとすごく貴重な体験だったと思います。



学校の休み時間の風景



キャビンアテンダントさんと

4日目。ホストファミリーとたくさん話すことができ、少しずつ親近感がわいてきました。今日はラザフォードカレッジに行きました。日本とは全く違う学校風景や授業の様子にとっても驚かされました。この日、学校の生徒達のマオリショーを見ることができました。その迫力には私はとても圧倒されました。ショーを披露してくれた後、みんなでお菓子を食べたり、写真を撮ったり、充実した1日でした。

5日目。みんなと会えなくて不安な

ホストデー。今日はホストマザーの姉妹が来ていて、夕食にラム肉を食べました。思っていた以上においしくて、何度もおかわりをしました。

6日目。今日はビーチに行きました。そこからはスカイタワーやオークランドの街並みを見ることができ、すごく綺麗でした。不安だったホストデーもあっという間に過ぎ、ホストファミリーとの距離も縮まってきました。

7日目。オークランド動物園に行きました。初めてキーウィを見て、すごく可愛かったです。ガイドさんにキーウィが動いているのを見ることができるのはラッキーだと言われたので、私たちはついているなと思いました。今日でホストファミリーとの時間が最後。最初は一緒にいることさえ緊張していたのに、今となっては別れが少し寂しいと感じるまでになっていました。

8日目。ホストファミリーから手紙をもらいました。これは私の一生の宝物です。手紙をもらって、ホストファミリーと別れた後、ロトルアへ行きました。ロトルアでは羊の毛刈りショーを見て、テピヤへ行きました。

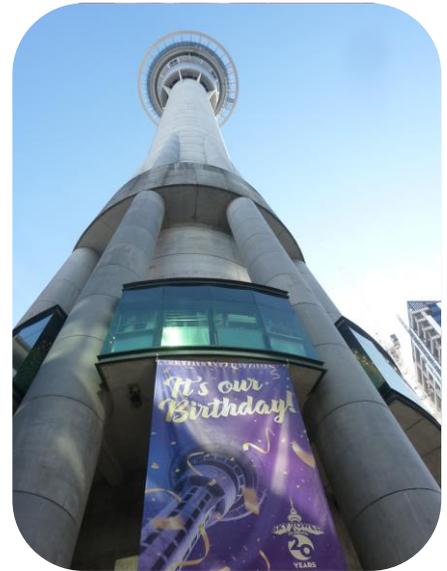
9日目。4人で12段のアイスを食べました。最初はきれいに積まれていたのに途中で倒れてしまい、みんなで大笑いしました。思いがけないハプニングもありましたが、それはそれでいい思い出になりました。ホテルでは、スーツケースに荷物を詰めて、いよいよニュージーランドを去る準備が終わりまし

た。飛行機の中で1人のキャビンアテンダントさんに出会いました。その人は私たちに日本語で優しく笑顔で接してくれました。このキャビンアテンダントさんは行きの飛行機でも同じように緊張していた私たちに接してくれて、ニュージーランドでの時間を笑顔で過ごそうと思う事ができました。

10日目。日本に着くと、たくさんの人が迎えに来てくれていました。久しぶりに家族と会って、ほっとした気持ちになりました。

私は、この海外派遣で報告書には書ききれないほどのたくさんの経験をしました。この経験は私の将来につながる大きな1歩だったと思います。私はこの派遣に応募するにあたって、支えてくれた両親に、応援してくれた友達・先生、そして何よりニュージーランドで一緒に時間を

を過ごした9人の仲間達に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。私はこの最高の10日間を一生忘れません！



スカイタワー



マオリの生徒と

最高の経験が出来たニュージーランド

加古川中学校

奥野 匠

僕が今回ニュージーランドで過ごした10日間は、自分の人生においてとても素晴らしい経験になりました。

僕は海外派遣事業に参加する前は英語に対する苦手意識がすごくあり、正直派遣団に選ばれると思っていませんでした。でも派遣団に選んでもらえたので、不安だけど自分自身の全力を出そうと頑張りました。派遣団のみんなとは何回かの研修でとても仲良くなることができ、海外派遣に行くのが楽しみになりました。

出発当日、家族と10日間も離れたことがなかったので不安で不安で仕方なかったです。

まず向こうに着いてからは、心配事の1つだった入国審査がトラブルなく無事に済み、ニュージーランドに入国出来たのでほっとしました。到着後すぐにオークランド博物館へ行きました。マオリの文化やニュージーランドの歴史に触れることが出来ました。その後、もう1つの心配事だったホストファミリーとの対面がありました。僕が受け入れてもらったホストファミリーは、過去に何度もホームステイの学生を受け入れているベテランファミリーでした。とても気さくな家族だったのですぐに打ち解ける事が

出来ました。でも初日はホストファミリーが話しかけてくれても、うまく返事をする事が出来ず英語の難しさを痛感しました。

翌日はオークランド市内の名所を見学に行きました。まずはスカイタワーに行きました。想像以上に大きく、展望台からはオールブラックスのスタジアムが見えました。いいタイミングで虹も現れ感動しました。その後は市内散策、タウンホール、日本庭園などを回りました。ど



ラザフォードカレッジを訪れて



間欠泉で吹き上がるのが見えた！ラッキー！

の建物も綺麗で日本とはまた違ったデザインが印象的でした。日本庭園ではワイタケレ市と加古川市との友好姉妹都市25周年の記念式典に加古川市長と共に参加をさせていただき光栄に思いました。

4日目はラザフォードカレッジへの学校訪問でした。そこで驚いたのは授業風景です。普通に授業中にお菓子を食べたり、携帯を使ったりしていて、とても自由でした。校内ではバディ（僕より年下なのに背が高く大人っぽいのに驚きました）に付いてもらって過ごしました。家に帰って夕食時にいなり寿司を作ってもらって食べてもらいました。みんな「グッド！」と言って喜んでくれました。



可愛い羊が3匹も

週末のホストデーの二日間は、サッカーの応援、教会、水族館、おばあちゃんの家と、あちこちに連れて行ってもらい、今回の旅で一番思い出深い日々でした。ホストファザーから、来てくれてありがとう！と言ってもらって、感激でした。最終日の夜にホストファミリーへの感謝の気持ちを手紙にして、翌朝手渡しました。その時はホストファミリーとの別れが辛く思わず泣いてしまいました。温かい家族の一員として迎えてもらえた事に、ただだ

だ感謝の気持ちでいっぱいだったのです。

ホストファミリーと別れてからは、派遣生のみんなと帰国までの3日間ニュージーランドの思い出をたくさん作りました。ロトルアへ行き、レアな間欠泉を見たり、牛の乳しぼりをしたり、マオリの伝統的なダンスを見せてもらったりと、心が躍りっぱなしでした。

今回派遣生に選ばれ、たくさんの貴重な経験をさせていただいた事で、3つの大きな気持ちの変化が起きました。それは「挑戦する事」、「英語の大切さ」、「出会いに感謝する事」です。これらの気持ちは今までは当たり前の事として感じていました。ニュージーランドに行つて色々な経験をしたからこそ気づけたこの気持ちを大切に日々過ごしていきたいと思ひます。

最後に僕はこの派遣団10人で行く事が出来て本当によかったです！そして、色々迷惑をかけてしまった派遣団のみんなや引率の稲岡先生、梅谷さん、ホストファミリー、行く前に応援してくれた学校の先生、友達、親戚、そして家族。この事業に関係してくれたすべての人に心から感謝したいです。



皆のバディーと記念撮影

最高の10日間

甲陽学院中学校

佐藤 大斗

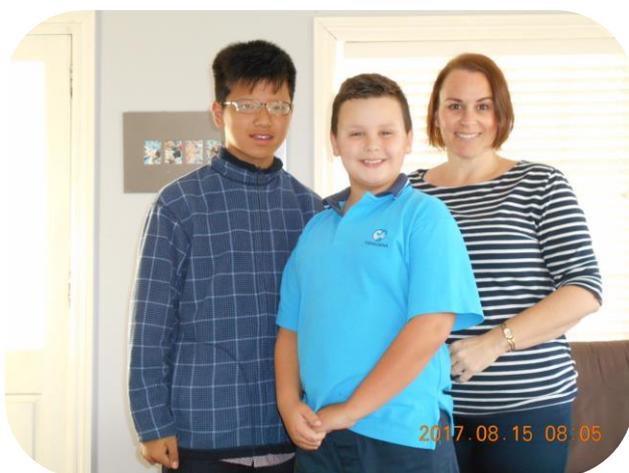
ニュージーランドで過ごした10日間は日本には絶対に味わうことのできない、貴重で、最高の日々ばかりでした。その10日間の中でも、特に僕の印象に残っているのは、ホストファミリーと一緒に過ごした6日間です。僕は今まで海外には行ったことがあったけれども、どの旅行にもガイドさんがついていたため、英語で話さずに、日本語で話していました。その分、今回の海外派遣でのホストファミリーと英語だけで過ごした日々は、とても貴重で新鮮に感じました。



スカイタワーの展望デッキにて

出発の日の朝、僕は期待と不安の両方を感じながら、国際交流センターに集合しました。出発式を終えて、バスに乗り込み、伊丹空港へ行きました。伊丹空港で昼食を食べた後、飛行機に乗り、羽田空港、成田空港を経由して、オークランド国際空港へ向かいました。

オークランドへ向かう機内では、鶏のから揚げを食べたので、なかなかニュージーランドに行くという実感が湧かなかったのですが、機内で一泊した次の朝、起きて、昼食を食べればしばらくすると、飛行機の窓から、ニュージーランドの島が見えました。その瞬間、やっとニュージーランドに来たのだなという実感が湧き、ニュージーランドでの生活が楽しみになってきました。でも、オークランドに降り立つと、雨が降っていて、いささかショックでした。



ホストファミリー

その後、みんなで博物館へ行き、昼食として、ニュージーランド名物のフィッシュアンドチップスを食べました。そして、その日の午後、待ちに待った、ホストファミリーとの対面がありました。最初は楽しみにしていたのですが、ラザフォード・カレッジでホストファミリーを待っている間は、とても緊張しました。僕のホストファ

ミリーは、ホストマザーのジュリアとホストブラザーの9歳のクーパーの二人です。僕は家に帰る車の中では、緊張のあまり何も話せませんでした。けれども、ジュリアが日本語で話しかけてくれたため、緊張がほぐれ、その後は、どんどん話すことができるようになりました。

3日目以降は、ニュージーランドの様々な所へ行きました。スカイタワーやタウンホール、加古川市がオークランド市に寄贈した日本庭園、動物園、ロトルアなどに行きました。スカイタワーからは、オークランド市内を一望することができました。また、命綱一本で展望台の周りを歩くスカイウォークやスカイタワーから地上に飛び降りるスカイジャンプをしている人もいました。

4日目には、ラザフォード・カレッジへ学校訪問しました。ニュージーランドの学校は、日本と全然違いました。校舎は低く、ほとんどの建物が一階建てでした。また、授業を自分で選べることや、授業中にスマートフォンを触っていることなど、日本の学校では考えられないことばかりでした。ニュージーランドの伝統的な儀式「ポフィリ」にも参加しました。



ラザフォード・カレッジで最高の仲間と

7日目は、天気予報では、午後には雨が降る予報だったので、予定を変えて、午後に行くはずだった動物園を午前、午前に行くはずだったショッピングを午後に変更しました。しかし、残念なことに、動物園にいる間に雨が降って、午後には全く雨が降りませんでした。でも、雨の中の動物園というのは、なかなか経験することがないので、それもよかったなと感じました。

8日目の朝、ついにホストファミリーとの別れの時がやってきてしまいました。別れる時に、「ありがとう。佐藤と一緒にいれてよかった。いつでも戻ってきてね。」と言ってくれたので、とてもうれしかったです。



間欠泉で

今回の海外派遣では、今まで経験できなかった様々なことを体験でき、また、いろいろな人と会うこともできました。今回、この仲間と一緒にいくことができ、本当に良かったです。そして、もっと英語を勉強して、いつかまた、ニュージーランドに行けたらいいと思います。

「宝物になった10日間」

平岡中学校

埜本 茜音

私にとって、この海外派遣研修は小学5年生の時に知り、中学生になったら参加することが夢でした。合格発表の番号を見たときは信じられないくらい嬉しくて、家族みんなでも喜んでくれました。こんな期待一杯から始まった研修でしたが、初日の顔合わせの時は緊張して不安もありましたが、研修を重ねるごとに仲良くなれて研修日が楽しみになりました。



ジャパンマーケットの前で

そしていよいよニュージーランドへ出発です。ニュージーランドへ旅立つのに楽しみで仕方ありませんでした。10時間のフライトもあっという間に感じて、初の国際線も快適でした。

ニュージーランドは寒くて日本の暑さを思い出せないくらい真逆で不思議でした。現地ではニュージーランドでしか見ることのできないキーウィを見たり羊のショーなど素晴らしい体験が出来ました。スカイタワーも見学し、ここからの景色は最高でした。ガラス張りの床もあり高さが強調されました。



スカイタワー展望台にて

虹も見えました。喜んでいるとガイドさんが「ニュージーランドでは漫画みたいな綺麗な半円の虹がみえるよ」と教えてくれました。実際滞在中とても綺麗な半円の虹を3回も見る事ができました。その他にも、ニュージーランドでは救急車や消防車をよぶとお金を払わないといけないことや、シートベルトをしていない場合はしていなかった人が罰金を払うことなどを教えてもらい文化の違いを感じました。

私のホームステイ先はお父さん、お母さん、16歳の男の子、14歳の女の子の4人家族でした。迎えにきてくれた後の車中では少し会話をした記憶があるけれど、緊張していてあまり覚えていません。その日の

夜、あまり話をせずに1日目が終わってしまった事を後悔しました。だから2日目からは積極的に話し掛けました。すると、私の英語を聞いてくれて、理解しようとしてくれました。初めて日本語が通じない人とのコミュニケーションがとれた瞬間で、とても嬉しかったです。段々と緊張もせずに自然と過ごすことができ、ホストファミリーと過ごした6日間はあっという間で、家族のように接してくれたことが嬉しく、毎日がとても楽しかったです。



学校でのランチタイム

ラザフォードカレッジの訪問も楽しみの1つでした。私のバディはホストシスターだったので話しやすく打ち解けやすかったです。ランチタイムはバディのジョーダンとその友達のアリスとピザを食べました。一緒に食べることで沢山話げできました。学校の様子は自由だけど生徒のみんながしっかり勉強をしていて独りで寂しそうにしている人もなく、とても楽しそうでした。

この研修に参加して、実際、現地の人と話せる英語はテレビで聞く英語でもなくリスニングで聞く英語でもありませんでした。聞きとれなくても目と目を合わせて会話する大切さを学びました。もっとこれからも英語を勉強したいと思えました。相手に思いを伝えるには“自分から”が大事なことも実感し、大事なことは直ぐに行動に移すこと、移さないと何も始まらないことを学びました。これからの日常生活や将来にいかしていきます。

最後に、海外派遣事業に携わってくださった職員の皆様、合格のために面接の練習をしてくださった学校の先生、ニュージーランド行きを応援してくれた家族に感謝です。そして引率の梅谷さん、稲岡先生、メンバー9人、楽しい10日間をありがとうございました。一緒に過ごせた時間は一生の宝物です！！持参したお小遣いが10ドルほど余りました。このドルを持って、もう一度ニュージーランドへ行くことを次の夢にして、これからも勉強とコミュニケーション能力を身につけるよう頑張ります。



ミッションベイにて

「思い出の10日間」

両荘中学校

中畑 壮之介

僕は今回の海外派遣事業を通して、積極的にコミュニケーションをとることや、自分を知ってもらうことがとても大事だなと感じました。

私たちは現地のラザフォードカレッジを訪問する機会があり、現地の生徒のみんなと体育の授業でバスケットをしました。僕は中学の部活でバスケット部に所属しているので、バスケットは得意なほうです。ゲームでシュートをきめた時は、生徒のみんなが歓声をあげて寄ってきてくれて、「君上手だね!」とか「一緒にチームでよかった!」など、自分も嬉しくなるような言葉をたくさんかけてもらえました。そのおかげですごく仲良くなれたし、自分から話しかけに行くことができるようになりました。やはり、自分が好きなこと



ラザフォードカレッジにて

や得意なことをもつことは大事だと思ったし、それを知ってもらうことは大切なことだなと気づきました。

ここで、僕がニュージーランドへ行って楽しかったことをいくつか紹介したいと思います。1つ目はスカイタワーです。オークランドの町を写真におさめ、キレイな景色を眺めたり記念コインも作りました。高いところが苦手な人の反応を見るのも楽しかったです。それから、ハーバーブリッジや、虹などの自然現象も何回も見ることができました。



子羊達と1枚!

2つ目はラザフォードカレッジを訪問した時です。授業の様子は日本と全く違い、先生が授業をしているにもかかわらず、携帯やパソコンを触っていたり立ち歩いていたりと、日本では考えられないぐらい自由でした。ただそこが海外の特徴であり、僕が憧れるポイントでもあると思います。とにかく現地の学生のみんなはとてもフレンドリーで、遊びにも誘ってくれ学校のことについていろいろと教えてくれたりしてとても嬉しかったです。

3つ目はオークランド動物園へ行ったことです。僕が訪れた日はとてもラッキーな日でした。なぜなら、ニュージーランドにしか生息していない絶滅危惧種でもある国鳥のキー



マオリショーすごい！

ウィバードを見ることができたからです。キーウィは夜行性で起きている時間が短いと聞いていたので、見られないかもしれないと思っていたのですが、運よく見ることができました。キーウィは意外と小さくて見つけにくかったけれど、キーウィのほうから出てきてくれて歩き方なども見ることができました。とても可愛かったです。他にもレッサーパンダやブルーペンギンを間近で見ることができたので、動物園はすごく思い出に残りました。

スカイレストランでは、愛媛県からホームステイに来ていた団体の方々と一緒になりました。その時はあまり喋らなかったけれど、偶然にも8日目のホテルの宿泊先が同じで帰国する日も同じということもあり、一緒にマオリのダンスを体験したりして親交を深めました。外国で同じ国の人と出会うとテンションも上がってすごく楽しかったです。

羊の毛刈りショーでは、子羊と触れ合うことができとても癒されました。生まれて2、3日くらいしかたっていない羊がいたり、とても賢い牧羊犬が出てきたりして会場はとても賑やかで楽しかったです。羊の毛を刈るところは初めて見たので少し可哀相に感じましたが、毛刈りをするこの意味もしっかり学ぶことができました。

8日目に宿泊したホテルでは、先住民族であるマオリの文化に触れられるマオリショーを見ました。とても本格的ですごく迫力がありました。しかもマオリのダンスを教えてください少し踊れるようにもなりました。体験型だったので、すごく楽しかったです。やはり派遣期間の中で一番楽しかった思い出はホストファミリーと過ごした時間です。ホストマザーのジェニファーは料理がとても上手で一番話しやすかったです。ホストファザーのピーターもいつも親切でした。インタナショナルスチューデントで中国人のジェイソンとベトナム人のエンは、いつも年下の僕を気にかけてくれてお兄さんのような存在でした。僕のことを家族のように接してくれたことに本当に感謝です。「いつでも帰っておいで」と言われた時は、とても嬉しかったです。

僕は、今回海外派遣に参加できて本当によかったし、この10人のメンバーで参加でき、本当に嬉しかったです。またいつか、ニュージーランドへ帰って思い出をつくりたいです。ありがとうございました。



ホストファミリーと

発見がたくさんあった10日間

神吉中学校

長谷川 蛍乃夏

私にとって、この海外派遣が初めての海外でした。軽い気持ちで受けていたので、受かったと聞いたときは信じられなかったし、とても嬉しかったです。でも、研修を受けていくにつれて、本当に自分でよかったのかなと思うようになっていました。

この派遣で一番心に残っているのは、ホームステイです。ニュージーランドで観光しているときはとても楽しかったのですが、ホストファミリーと会うときはとても緊張して、ガチガチでした。でもホストファミリーは、家や車などでたくさん話しかけてくれて少し安心しました。ホストファミリーの人たちはとても優しく、私が何を話せばいいか迷っていると、何か質問してくれたりしました。暇な時間をあまり作らないように、映画も見せてくれたりして嬉しかったです。そして、ニュージーランドの日常生活の体験もできました。一家に一台は食器洗い機があることを知り、とてもびっくりしました。ホストファミリーは、私にたくさんの事を教えてくれました。とても感謝しています。



ケーキを作ってくれたホストシスターと



ホストファミリー

私は英会話を10年間も習っているのので、英語には自信がありました。でもホームステイをしたおかげで、私がどれだけ英語ができないかがよくわかりました。聞かれたことを冷静に考えるとわかるのですが、会話になると分からなくなって返事することしかできませんでした。それがとても悔しくて、とにかく単語をつなげて話してみることにしました。言いたいことが伝わって、本当にうれしかったです。

ニュージーランド4日目のラザフォートカレッジでは、授業体験をしました。バディーのフィオーナが、演劇の授業を取っていてそのクラスの授業を見させてもらいました。授業は、とても自由な感じで一人一人が演じたいように演じていました。先生からはあまり指摘がなく、誰かの演技を見て自分で学ぼうという姿が見られました。生徒が意欲的に授業に取り組んでいて、私の学校でもこのような生徒が増えるといいなと思いました。他にも日本語の授業などがあり、頑張っている姿を見て私も、英語をもっと頑張らないといけないと思い、いい刺激になりました。



マオリの集会所

その学校ではモーニングティーという時間があり、2時間目が終わると間食がある

みたいです。そこでは果物などを食べるらしいですが、リンゴや、洋ナシをそのまま食べていたので驚きました。校内のいたるところにゴミ箱があり、ポイ捨てをしている生徒が

見られず、とてもいいなと思いました。これらの事はなかなか日本では見られないので、して行ってほしいなと思いました。

私は、8月16日が誕生日でした。ホストファミリーと過ごす最後の日の夜に、サプライズで誕生日を祝ってくれました。まだ誕生日ではなかったけれど、本当にうれしかったです。他にも、15日の夜にホテルで女子会をして、いろいろ話していると、12時になった瞬間ハッピーバースデーと言ってくれて手紙もくれました。朝には派遣団全員からの歌や、協会からのプレゼントもありました。



ランチボックス

とても嬉しかったし、これまでで1番よかった誕生日でした。本当に感謝しています。

今回の海外派遣でいろいろな事を学ばせてもらいました。ホームステイでは、話そうとする気持ちと、聞こうとする気持ちがあれば何とか乗り越えられると分かりました。マオリのハカを見た時も、文化を受け継いでいてすごいなと思いました。私も民謡を習っているけれど、習っていることが恥ずかしくて隠していました。マオリの人たちがハカを受け継いできたように、私も民謡を受け継いでいきます。マオリの人たちのおかげで大切なことに気づきました。そして、応募しようと言ってくれたお母さん、合格できるよういろいろ手伝っていただいた学校の先生方、大切なことを教えてくれたホストファミリーやラザフォートカレッジの人たちに感謝して、この経験をこれからは活かし、いろいろな事に励んでいきたいと思っています。

人生最高の10日間

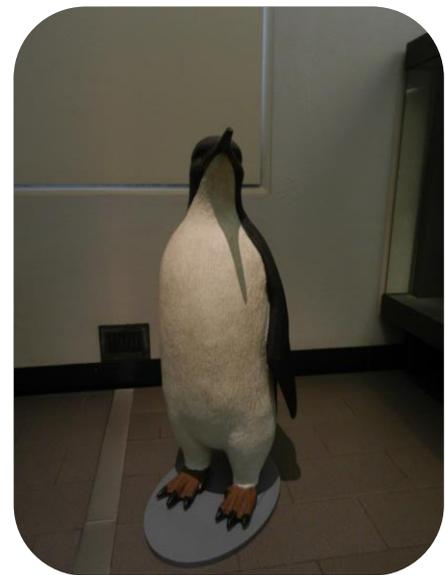
平岡中学校

藤井陸人

まず始めに、この事業と僕を繋いでくださり、作文の添削や面接の練習に付き合ってくださいました学校の先生、最高の10人を選んでくださった試験官の皆様方、ニュージーランド航空の皆様方、引率の稲岡先生、梅谷さん、現地ガイドさん、バスの運転手さん、ホストファミリー、ラザフォードカレッジの皆様方、最高の9人の仲間たち、口をそろえて冗談で「飛行機落ちてまえ」とか言いつつ応援してくれた友達、教育委員会の方々、そしてなにより経済面での援助やこの事業を全く否定しなかった家族に感謝したいと思います。

正直、試験当日も緊張は全くなく、待ち時間はずっと提出期限ギリギリの、学校の社会のワークをしていました。面接で初めて会った大人相手でも、少し笑いながら、時々他の事を考えてリラックスしながら臨めました。試験を終え、協会を出た瞬間、自信しかありませんでした。それに伴い、結果発表の前から準備を始めていました。3.4倍の倍率にも全く動じませんでした。そして、結果発表で29の数字を見た瞬間、喜びが溢れ出しました。そして友達に一齐に報告しました。すると友達や家族が祝福してくれました。そんな自分が改めて幸せだと感じた瞬間でもありました。

そして、全く市の代表という実感が湧かないまま、当日を迎えました。出発式を終えても実感があまりにもなかったの、伊丹空港に向かうバス内で「いつになったら実感が湧くのか」というタ



怖かったけど色々あって楽しかった
オークランド博物館

イトルで脳内会議をしていました。「空港で飛行機みたらかな」とか、「さすがに10時間飛行機乗ったらくるな」とか「入国審査の緊張感はいい感じにくるぞ」とか考えて、変に緊張感を体が欲していました。結局、緊張感など来ないまま、10日間過ごしました。到着してすぐに、オークランド博物館に行きました。ちょっとしんどかったです。

10日間の滞在で特に印象に残っているのは、丸1日ラザフォードカレッジにいた



俺とジョン、そしてピザ

4日目です。この日はバディのジョンと過ごしました。ジョンにはたくさんの友達がい
て、皆紹介してくれました。休み時間にはバスケットボールをしました。サッカー部の僕
は案の定活躍できませんでしたが、中畑壮之介という名前の少年がバスケットボールを通
して友達を増やしている姿を見て、スポーツのグローバル性に心うたれました。

8日目、ホストファミリーとの涙の別れの後、ロトルアへ向かいました。このロトルア
ではまず、羊の毛刈りショーに行きました。悲劇はここで起きました。毛刈りショーを見
る前に仔羊と2ショットを撮る時間がありました。僕の番がきて、3. 2. 1とカメラの
カウントダウンがきてポーズの瞬間、仔羊は僕を蹴ってきました。こんな風に。



藤井陸人、仔羊にやられる。

右手はピース、左手はビックリしてブレ
ブレ、仔羊の目は全く罪のない、きれい
な瞳です。時間がなかったので、撮り直
しがなく、僕のデータにはこれだけが残
りました。

そして、ロトルアで僕は智浩に会いま
した。智浩は、たまたま僕たちと同タイ
ミングでニュージーランドに来ていた愛
媛県から来た同級生です。初対面から意
気投合し、親友になりました。智浩と
は、マオリショーのステージに一緒に上

がったりしました。

最後に、後輩へのメッセージをここに残した
いと思います。

自分用のお土産は食べ物ではなく、形に残る
ものの方がいいと思う。その方がずっと思い出
に残りやすいし。どうせならどっちも買って
いと思う。

買いたくなったら迷わず買おう。慎重に行き
すぎて終わったら結局たくさんお金余ってあの
とき買っとけばよかったとかなったら嫌やで。

はめを外して遊び過ぎない方が良く。俺らが
怒られた訳じゃないけど、やり過ぎて怒られた
ら雰囲気が悪くなって心の底から楽しめなくな
ってしまう。

思った言葉は素直に言いましょう。どんなに下手な英語やゴリゴリ日本語でも良いから
心で伝わるから。

最後の最後に、楽しかった。



ノリの良い智浩

チャレンジしないとできない経験

両荘中学校

稲岡 修一

第27回加古川市中学生海外派遣団に引率教師として同行させていただきました。別の学校の生徒たちが集まるので不安はありましたが、事前研修を通してすぐに仲良くなり、明るく楽しい雰囲気が出ていました。また派遣生の10人は何事にもチャレンジしようと前向きに取り組むことが多く、事前研修から今回の派遣事業が楽しみになりました。

今回の派遣事業は10日間ということもあり、例年以上にたくさんの場所を見学することができました。

オークランド博物館を訪問し、先住民族マオリやかつてニュージーランドに生息していた「モア」という大きな鳥の存在を学習しました。また、博物館には戦争時代の記録も残されており、貴重な資料を見学することができました。

8月10日には、加古川市とオークランド市（旧ワイタケレ市）が姉妹都市になり25周年の式典が行われました。加古川市長と共に式典に参加し、これからの加古川市とオークランド市の発展を願いました。今年の派遣生だからこそ参加できた式典となりました。

私自身、1番印象に残っているのはラザフォードカレッジでの1日です。バディとペアになり理科や英語、日本語の授業に参加させていただきました。授業では、ICTを取り入れた授業展開が多く、生徒たちを中心に活動していました。わずかな時間の参加になりましたが派遣生にとって有意義な時間でした。生徒たちによるマオリの儀式では、厳粛な雰囲気で歓迎していただき、ホン



博物館前でのみんなでジャンプ！



披露していただいたハカ

ギを交わしました。ニュージーランドの生徒が行ってくれた「ハカ」は、私たちのために真剣に取り組み全力を尽くす姿が印象的でした。ニュージーランドのラグビーチーム「ALL BLACKS」が試合前に行っているハカは有名なので見たことはありましたが、披露してくれた「ハカ」はそれ以上に想いが伝わってくるものでした。

午後からの体育の授業では、体育館にてバスケットボールやサッカーをしていました。ニュージーランドの生徒と派遣生がコミュニケーションを取り合い、協力しながら共に楽



ラザフォードカレッジでの授業風景

しんでいました。ラザフォードカレッジの生徒たちは何もわからない私たちを受け入れてくれ、親密に学校のことを紹介してくれました。派遣生はこの事業でしかできないことをし、貴重な経験をしました。

オークランド市はスカイタワーや高層ビルなどが立ち並ぶ都会でしたが、ロトルアは自然が豊かで酪農が盛んな地域でした。バスからの景色では生まれたての子羊をみることができました。レッドウッド森林公園は、日本では見ることができない植物を観察したり、

自然豊かな雄大な公園を散歩したりしました。自然を大切にする日本の素晴らしさとも共感する部分を感じられました。

ニュージーランドでの経験は、派遣生にとって貴重な体験になるものばかりでした。将来海外で学習し、生活したい派遣生も多くなり、今回の活動を毎日日記に記録している派遣生もいました。「派遣事業に参加しよう」とチャレンジしたからこそこのような貴重な体験ができたのだと帰国して改めて思いました。派遣生がこのような良い経験ができたのはたくさんの人々の支えがあったからです。ニュージーランドの人々の心温かい対応や同行して下さった梅谷さん、現地でお世話になった日本人スタッフの方々、加古川市役所や国際交流協会をはじめこの事業に携わって下さった全ての方々に感謝をして、加古川市の教育の発展に活かしていきたいと思えます。今後もこの事業が継続していくことを切に願っております。



博物館にある戦闘機

思い出のページ



タウンホール（市議会を兼ねた建物）の前にて



お世話になるホストファミリーと対面



オークランド博物館



タウンホールの見学



レッドウッドフォレスト



ラザフォード・カレッジにて



ロトルアにて



有名なフィッシュアンドチップス



学校では授業体験もしました！



間欠泉に圧倒されました



スカイタワーからの景色



公益財団法人 加古川市国際交流協会

〒675-0017 兵庫県加古川市野口町良野387-1

TEL : 079-425-1166

FAX : 079-425-0200
